

## 小学校の複式授業の指導についての研究

### ～ガイド学習、ワークシートの活用の視点から～

渋川良夫 平川市立葛川小学校

#### 要 旨

青森県では、少子化等が進み学校統合により複式学級をもつ小規模校が減少しつつある。小規模校では、それぞれの学校の特色を生かしながら複式の指導法に取り組み、学校経営の充実を図ったところも多いが学校統合が図られつつあるところも多い。しかし、長年培われてきた指導法については受け継いでいく必要がある。ここでは、複式指導におけるガイド学習やワークシートを活用した授業の利点や問題点を検討し、複式の指導について考察をしていく。

【キーワード】 複式授業 直接指導 間接指導 ずらし

#### 1 はじめに

青森県には、小中合わせて154校のへき地・複式校がある。その内の、10校が小学校と中学校が併置校である。平成20年度の中南管内\*におけるへき地等学校は、小・中学校合わせて14校でその割合は約14%である<sup>1)</sup>。また、近年、少子化や過疎化などにより、へき地等学校以外の学校においても児童生徒数が減少し、複式学級を有する学校が生じている。中南管内における複式学級を有する学校は、小・中学校合わせて10校（19学級）である。

複式学級を有する学校は地域との結びつきも深く、特色ある取り組みを行っているところも多い。複式学級の指導方法は、1人の教師が2つの学年と一緒に学習をするために、直接の指導時間が少なくなるという面もあるが、児童が自分達で学習を進めながら自力解決をしていくという長所もある。下北地域†のように長年、複式授業について取り組みを行いながら授業の仕方を工夫しているところもある<sup>2)</sup>。

複式学級は、2個学年で構成されているため、同一学年であっても児童の生活経験等に差が見られたりする。複式での指導とは、複式学級におけるすべての学習指導を指すが、指導形態からみると学年別指導と同単元指導に大別される。学年別指導と同単元指導をさらに細かく見ていくと、類別できる<sup>3)</sup>。これらは、複式教育にたずさわってきた数多くの教師の、長い間の研究によって一般化されたものである。

複式の指導では、間接指導の効率化を図るため児童が学習計画によってリードしながら共同で学習をするガイド学習や学習の流れを分かりやすくするために、用紙に必要事項を記入し学習課題を明確にし、内容を分かりやすくするワークシートの使用等がある。

ここでは、難しさのある複式授業の仕方について、ガイド学習やワークシートの方法を考えながら、課題も踏まえながら、複式授業の指導の仕方について実践も踏まえながら考察する。

\* 弘前市を中心とした地区。黒石市、平川市、藤崎町、大鰐町、田舎館村、西目屋村。

† むつ市を中心とした地区。大間町、東通村、風間浦村、佐井村。

## 2 研究の目的

本研究は、複式学級における、複式の指導方法の利点と問題点を考察しながら、ガイド学習やワークシートを活用し児童を生かした授業の仕方について検討するものである。

## 3 研究方法

研究に当たっては、複式授業の実践例や授業研究協議会、自分の授業実践からの児童の感想や観察等で調べ、検討することで研究を進めていく。

## 4 複式指導の実際

### 4-1 複式の指導について

複式指導は、大別すると学年別指導と同単元指導の2つの種類に分けられる。これらは、へき地・複式教育にたずさわってきた数多くの教師の、長い間の研究と実践によって一般化されたものである。

学年別指導は、さらに2種類に分けられ①異教科を学年ごとに行う異教科指導、②同教科ではあるが、学年毎に異なった単元・指導内容で行う同教科異単元指導がある。同単元指導は、①両学年の同一系統に属する教材を同じ単元として組み合わせ、目標や学習活動を共通のものとしながらも、学年差に応じ、程度を変えて行う指導、②両学年の学年差に配慮し、同一教材を扱いながら単式形態で行う指導がある。尚、学習内容を同単元として統合しているが、学年毎に異なった内容で行う指導で、学年別要素を多く含んでいる、異内容指導は、学年別指導で行う時もあれば同単元指導で行う時もある<sup>4)</sup>。

表1 学年別指導の一般的なずらしの1単位時間の学習展開<sup>5)</sup>

段階	A 学年の学習活動	直間		B 学年の学習活動	段階
学習課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前の学習を想起する。</li> <li>・ 課題をつかむ。</li> <li>・ 解決のための見通しをもつ。</li> </ul> (結果の予想、解決方法等)	直接指導	間接指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の学習のまとめを利用して、練習問題や応用問題・発展問題に取り組む。</li> <li>・ 次の学習への意欲につながる疑問、課題をもつ。</li> </ul>	習熟応用発展
自力解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人で解決に取り組む。</li> <li>・ ペアまたはグループで確かめ合う。</li> <li>・ 自分の考えを書き留めておく。</li> </ul>	間接指導	直接指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題をつかむ</li> <li>・ 解決の見通しをもつ。</li> </ul> (結果の予想、解決方法等)	学習課題把握

定 着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決の過程と結果を発表する</li> <li>・それぞれの考えを意見交換し自分の考えを見直す。</li> <li>・学習のまとめをする。</li> </ul>	直接指導	間接指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で解決に取り組む。</li> <li>・ペアまたはグループで確かめ合う。</li> <li>・自分の考えを書き留めておく。</li> </ul>	自力解決
習熟 応用 発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめた結果を利用して、練習問題や応用問題・発展問題に取り組む。</li> <li>・次の学習への意欲につなげる疑問、課題をもつ。</li> </ul>	間接指導	直接指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決の過程と結果を発表する。</li> <li>・それぞれの考えを意見交換し、自分の考えを見直す。</li> <li>・学習のまとめをする。</li> </ul>	定着

表1は一般的なずらしの1単位時間の学習展開の例である。教師のわたりが2つの学年にわたっていることがわかる。学習課題把握でしっかりと課題をとらえさせ、自分達で自力解決を行い学習に取り組むようにする。それぞれの考えを発表し合って、学習のまとめを行う、習熟を図るために練習問題や応用問題に取り組む。

この一般的な形によって複式授業を行っていくことになるが、なかなかこのような形でうまく授業が進んでいくとは限らないところに、複式授業の難しさがあるといえる。

#### 4-2 複式指導の困難な点

複式学級担任者・初任者研修会<sup>6)</sup>

- (1) 日 時：平成19年5月10日 会場：H市立K小中学校  
日 時：平成20年6月26日 会場：H市立T小中学校  
(2) 対 象：複式学級を初めて担任した教員、新採用教員

**表2 研修会での参加者からの複式指導の問題点**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・片方を直接指導していると間接指導の子どもたちの指導過程がわからないことがたくさんある。</li> <li>・個々の児童の個人差への対応が難しい。</li> <li>・学年において学習能力にかなりの差があるので進め方に苦労している。</li> <li>・間接指導の進め方がよくわからない。</li> <li>・2・3年の変則複式で生活科と社会科、理科が異なるし時間が違う。時間割の組み方を教えていただきたい。</li> <li>・学校体制の時間割の組み方について。</li> <li>・少人数での話し合い活動の充実のさせかた。</li> <li>・教師側のわたりがうまくいかない。</li> </ul>
--

表2は、研修会の中での話し合いの中で出てきた問題点である。これを見ると、複式の授

業を行うにはかなりの苦勞があることがわかる。問題点として挙げられているのを見ると、教師の手から離れる間接指導にかなり苦勞をしていることが分かる。また、1年と2年、3年と4年、5年と6年と順序よくなっている複式もあれば、2年と3年や4年と5年が組んでいる変則の複式もあるので、時間割を作るには他の教師との協力も必要になることが多い。

また、複式学級が初めての場合は、自ら複式授業の実践を積み重ねていくことが必要となる。間接指導がうまくいくためには、直接指導の時に学習の見通しや学習方法についてしっかりと準備をしておくことも大切なことになる。授業の流れを児童に教え、身に付けさせることも重要である。特に間接指導の時は、教師に代わるガイドの育成も育成することが大切である。

#### 4-3 総合に関するアンケート調査の結果から<sup>7)</sup>

- (1) アンケート日時 2005年12月中旬
- (2) アンケート対象者 青森県のへき地・小規模校12校  
回収部数18部（全体の90%回収）
- (3) アンケート内容 「総合的な学習の時間以外で苦勞していること」

表3 教科等の時間で苦勞している点

<件数>

項 目	苦 勞 し て い る 点
複式についての苦勞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数とはいえ、一人一人の能力差や作業時間の開きは大きい。しかも複式である。教材準備等には、時間がかかる。＜1＞</li> <li>・4・5年変則複式を担当していて、教材研究、評価等、時間が不足している。＜1＞</li> <li>・各学年の人数にばらつきがある。毎年、複式学級の組み合わせが異なり複式における指導計画を変えざるを得ない。＜1＞</li> <li>・複式学級であるため、時間の取り方、配分や無駄のない間接指導などが難しい。 (2)</li> <li>・複式の指導では、すべてにおいて大変である。複式は難しい。＜1＞</li> </ul>
教科指導の苦勞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の授業が複式になると大変だと感じる。特に、実験が多い単元の時どうしても片方の学年がおろそかになってしまう。一人でも学び続ける子どもを育てる事が複式では、特に必要で大切な事だと感じる。＜2＞</li> <li>・3・4年の担任なので社会・理科の複式が特に大変。外に出る活動や実験などの学習では、どのように展開したらいいのか悩んでいる。＜2＞</li> <li>・複式の授業形式における充実した国語学習指導の在り方。＜1＞</li> <li>・体育等、チームでの活動がしにくい。＜1＞</li> </ul>

その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に確実に基礎的・基本的なことを定着させること。＜1＞</li> <li>・子どもの学力を伸ばすために、子どもの実態に即した教材研究に試行錯誤している。＜1＞</li> <li>・全校で10人を切る世界に突入して、学級という組織があるが機能しなくなっている学校を一つの学級に見立てていくような実践を考えなければならない。 ＜1＞</li> <li>・国語科では、教材を学習した後に必ず総合に関連する調べ学習があり、複式でどのように指導計画を立てればよいのか苦労した。＜1＞</li> </ul>
-----	--

表3から、「複式についての苦労」をみると教材研究の時間や教材準備の時間、指導計画についての苦労を挙げている。

「教科指導の苦労」では、理科の複式の授業で苦労していることがわかる。複式で理科の実験や観察を行うのは大変であることがわかる。とりわけ、安全面からは高学年の場合2つの学年を一緒に行うことは困難を感じているのではなかろうか。理科だけでなく社会、国語、体育等の教科にも苦労があることがわかる。体育などでは人数が少ないためにチームができにくく大変なことがわかる。また、国語などでは、話し合いが深まらずに充実感を得ることが困難な面がみられる。

「その他」では、国語科において、教材を学習した後に総合に関連する調べ学習があり、複式での指導計画を立案に苦労したなどが挙げられている。教科学習と総合的な学習を関連させて調べ学習を計画することが、とりわけ複式において難しい点となることがうかがえる。

## 4-4 授業事例

### 4-4-1 ガイド学習の指導事例<sup>8)</sup>

#### (1) 活動のねらい

本事例は、それぞれの学年のガイドが学習を進めた授業であり、教師がわたりを行えない場合はガイドが中心となって話し合い活動に取り組んだ実践である。

#### (2) 活動の内容

##### 【第3学年】

①単元名 べつべつに、いっしょに

②本時の目標

加法と乗法を組み合わせた問題を考えるにあたって、「べつべつに解く」方法と「まとまりを考えて解く」方法の2通りがあることに気付く。

##### 【第4学年】

①単元名 2けたでわるわり算

②本時の目標

2位数÷2位数の商を導き出すことができる。

#### (3) 本時の指導

表4 ガイド学習を取り入れた授業

G:ガイド

評価 手だて・留意点	学習活動 予想される児童の反応	段 階	段 階	学習活動 予想される児童の反応	評価 手だて・留意点
	<b>①問題把握</b> <b>G:問題をみんなで言い ましょう。</b>	つ           か           む	使 う	<b>①適用題を解く</b> <b>G:問題を解いて下さい (前時の問題)</b> <b>G:答え合わせをします。</b> <b>G:問題を書いて下さい。</b>	
おとな4人と子ども4人で、ゆう園地へ行 きます。入場料は、おとな1人が200円 子ども1人が100円です。みんなで何円 はらえばよいですか。	<b>G:問題をイメージして 下さい。</b> ・図を書いてみる。 <b>G:先生お願いします。</b> ○ 入場券を並べてみ よう。		つ	<b>②問題把握</b> <b>G:問題をみんなで言い ましょう。</b>	
・大人と子ども 1人ずつまとまり を意識させる。	いろいろな方法で答えをもとめてみよう		か	数えぼうが87本あります。1人に21本 ずつ分けると、何人に分けられ、何本あま りますか。  <b>G:問題をイメージしてくだ さい。</b> ・分けるからわり算になる。 ・21ずつ引いていけばいい。 ・線を書けばいいのかな。	
◇「みんなで何円」 から、すべてたせ ばよいことに気付 かせ求めさせる。	<b>③ひとりで調べる</b> <b>G:問題を解いて下さい。</b> ・ $200 \times 4 = 800$ ・ $100 \times 4 = 400$ ・ $800 + 400 = 1200$ 答え1200円 ・ $200 + 100 = 300$ $300 \times 4 = 1200$ 答え1200円 <b>G:自己評価を書いて下さい。</b>	調 べ る ①	む	<b>G:先生お願いします。</b> ○数え棒を分けてみよう。 ○答えの予想をしよう <b>③めあての確認する</b> 87の答えを求め ましょう。  <b>G:自己評価を書いて 下さい。</b>	・ 前時の違いや答 えの見当付け、そ の根拠を発表させ る。
【別々にかかる・ まとめてかける2 通りで考えてい る。】	<b>④みんなで調べる</b> <b>G:考えを発表して下さい</b> ・ 大人の入場料と子どもの入 場料を求めてたした。	調 べ る ②	調 べ る	<b>④ひとりで調べる</b> <b>G:問題を解いて下さい</b> ・ $87 - 21 - 21 - 21 -$ $21 = 3$ 4人あまり3本	◇数え棒を使って 答えを求めさせ る。



	⑤まとめる	ま と め る	①	・ 21×□で87に近い 数 21×4＝84 87－84＝3 4人あまり3本 ・ わる数を20として 見当をつけ 4人あまり3本 G: 自己評価を書いて 下さい。	【表現・処理】 2位数÷2位数 の商を見当付け て求めることが できる。(ノート)
問題のとき方には、「べつべつに」 「いっしょに」の2つがある。「い っしょに」で考えると早く簡単で ある。	G: 自己評価を書いて下 さい。				
	⑥適用題を解く G: 問題を解いてくださ い。	確 か め る	調 べ る ②	⑤みんなで調べる G: 考えを発表して下さい。 ・ 21本ずつ分けるから 87枚から21枚ずつ 引いていった。 ・ 21が何個あれば87 になるか考えた。 ・ 図に書いてみた。 ・ 筆算で解いた。	・ どの方法でも 答えが同じにな ることを確認す る。
1こ300円のケーキ3こと1本20 0円のジュースを3本買いました。全部 でいくらになりますか。					
【表現・処理】 別々にかける・ま とめかける2通 りの考えで解い ている。(ノート)	・ 300＋200＝500 500×3＝1500 A1500 円 G: 答え合わせをします。		ま と め る	⑥まとめる <div>どんな方法でも、答えは4あまり 3になる。</div> G: 自己評価を書いて下 さい。	・ 筆算がはかせ になりそうな ことから次時 につなげる。

表4はガイド学習の指導事例である。ガイド育成の初期の段階では、教師の支援や指導のもと自信を持たせ、不安を抱かないように配慮する必要がある。学習の進め方は一定の手順に沿って訓練し、基本的な進め方を身に付けるようにしていかなければならない。リーダーシップのとれる児童をガイドに指名すると学習を進めやすいが、最終的には、どの児童もガイドの役割を担えるように学年の発達段階を踏んでガイドを育成することが大切である。表4の授業も輪番制でガイドを担当した児童が、手順に沿って学習を進めたものである。

ガイドがつまずいてもお互いにカバーし合えるように、学習の流れは全員が理解しておくとともに、人間関係づくりも大事である。

#### 4-4-2 ワークシートを活用した指導事例<sup>9)</sup>

##### 1 活動のねらい

ワークシートの活用によって、学習課題が明確になり、学習すべき内容が分かりやすくなる。また、学習の流れがわかりやすくなり有効である。さらに、学習の跡が分かるため教師の指導にも生かすことができるが、ノートの活用も図るなどの工夫も必要である。

##### 2 活動の内容

表5 ワークシートを活用した授業

○支援●留意点□評価	学習活動	段階		学習活動	○支援●留意点□評価
○ワークシートを準備する。 ●6年生と同じ問題で導入する。5年生は一人で授業をしているので話し合わせることで意欲を喚起する。	1 問題場面について話し合い、学習課題をつかむ <div>□ℓのジュースを □人で分けます。 1人あたり何ℓのジュースを飲めるでしょう。</div>	つ	つ	1 問題をつかむ	○ワークシートを準備する。 ●5年生と同じ問題で学習を進め、わり算の意味一緒に考えさせる。
	2 課題をつかむ <div>(小数) ÷ (整数) の計算の仕方を考えよう。</div>	か	か	2 課題をつかむ <div>(分数) ÷ (整数) の計算の仕方を考えよう。</div>	
○初めに5年に入り、問題を解き進められるようにする。  □ 小数の除法も計算できることを考えることができたか。	3 ワークシートをもとに自力解決をする。 2.4÷3 ・図をもとに求め方を考える。	調	調	3 ワークシートをもとに自力解決をする。 ・図にジュースの量分を色塗りし、面積で割るとよい等の求め方を考える。	○ジュースの量を図からをとらせさせる。 □既習の計算の決まりをもとに考えることができたか。
	4 2. 4÷3の筆算の仕方を考える。 5 筆算の仕方を発表しまとめる。	確	確	4 調べたことをもとに計算の仕方を話し合う。 5 計算の仕方をまとめる。	
小数÷整数の筆算は、0. 1を位にして、その個数で考え、24÷3として整数の計算と同じようにすることができる。		ま	ま	分数÷整数の計算は、 2                      2                      2 — ÷ 3 = — = — 5                      5 × 3    15	
○ワークシートのまとめ	6 学習を振り返る。			6 学習を振り返る。	○ワークシートにまとめる。



【ワークシートの例】

＜ 5 年・小数のわり算ワークシート＞

<p>1 小数÷整数の計算</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div> <p>(1) 5. 7 リットルのオレンジジュースがあります。3 人で分けると、1 人あたり何リットルずつ飲めるでしょうか。</p> <p>①式を書きましょう。</p> <p>②答えは、およそ何リットルになるでしょう。</p> <p>③答えが何リットルになるか、黒板の図を使って求めましょう。</p> <p>(2) 筆算のしかたを考えましょう。</p> <p style="text-align: center;">5. 7 ÷ 3</p> <p>(3) 筆算のしかたを説明しましょう。</p> <p>(4) 計算のしかたをまとめましょう。</p>	<p>(5) 算数Vドリルの「3 7」の問題を解きましょう。</p> <p>(6) 計算のしかたをまとめましょう今日の学習をふり返りましょう。</p> <p>① 今日の学習はよくわかりましたか。</p> <p style="padding-left: 40px;">( ) よくわかった ( ) だいたいわかった</p> <p style="padding-left: 40px;">( ) 少し分からなかった ( ) 分からなかった</p> <p>② 5 年生にわかるように説明できましたか。</p> <p style="padding-left: 40px;">( ) よくできた ( ) だいたいできた</p> <p style="padding-left: 40px;">( ) あまりできなかった ( ) できなかった</p> <p>③ 感想を書きましょう。</p>
--	--

＜ 6 年・分数のわり算 ワークシート＞

<p>1 分数÷整数の計算</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div> <p>(1)</p> <p>6 分の 5 リットルのオレンジジュースがあります。2 人で分けると、1 人あたり何リットルずつ飲めるでしょうか。</p> <p>①式を書きましょう。</p> <p>④ 1 人あたり何リットル飲めるか、配られた図に色をぬって答えを求めましょう。</p> <p>③</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">分母は 6 から○にかわった</div> <p>分母は 6 からいくつに変わりましたか。</p> <p>(2)</p> <p>6 分の 5 リットルのオレンジジュースがあります。3 人で分けると、1 人あたり何リットルずつ飲めるでしょうか。</p> <p>① 式に書きましょう。</p> <p>② 1 人あたり何リットル飲めるか、配られた図に色をぬって答えを求めましょう。</p>	<p>③②の図をもとに、答えがいくつになるか話し合い、友達の考えのよいところや似ているところを書きましょう。</p> <p>(3) 計算のしかたをまとめましょう。</p> <p>(4) 今日の学習をふり返りましょう。</p> <p>② 今日の学習はよくわかりましたか。</p> <p style="padding-left: 40px;">( ) よくわかった ( ) だいたいわかった</p> <p style="padding-left: 40px;">( ) 少し分からなかった ( ) 分からなかった</p> <p>② 6 年生にわかるように説明できましたか。</p> <p style="padding-left: 40px;">( ) よくできた ( ) だいたいできた</p> <p style="padding-left: 40px;">( ) あまりできなかった ( ) できなかった</p> <p>③感想を書きましょう。</p>
---	--

表5は、ワークシートを使った授業の事例である。ワークシートの活用によって、学習課題が明確になり、学習すべき内容が分かりやすくなる。また、学習の流れがわかりやすいなど、特に低学年では有効である。さらに、学習の跡が分かるため、教師の指導にも生かすことができるがノートの活用も図るなどの工夫も必要である。

しかし、個に応じた指導を展開するための工夫をするために、早く終わった児童が発展的に取り組めるような課題を設定したり、習熟度別に課題を設定し児童が選択できるようにするなど、ワークシートの内容に幅を持たせることや何種類かのワークシートを準備し、児童が自主的に学習方法を選択することができるようにするなど、多様な学習方法の体得のための手段としての活用を工夫することが大事になる。ワークシート活用だけに偏ることなく、ノート指導との関連を意識することも重要である。実践例では、同じ問題を5・6年で解くとともにワークシートに工夫をしながら授業を行った実践例である。

#### 4-4-3 授業実践から

### 学 習 指 導 略 案

<5年>

①題材名 情報を生かす

②目 標 コンビニエンスストアでは、どのような情報を活用しているか調べることができる

<6年>

①題材名 中国やロシアと戦う

②日清・日露の戦争について調べ、二つの戦争と日本の産業発展との関係について考える。

③学習過程

表7 5・6年社会科学学習指導略案

1 コンビニエンスストアは、情報をどのように活用しているのでしょうか。 ・コンビニエンスストアで使われる商品の管理について調べる。	直接指導	間接指導	1 世界地図に国の名前を記入する。  ・ガイド学習により進める
2 コンビニエンスストアと工場や配送センターとの関係をつかむ。 ・ガイド学習により進める ・商品を売る以外の工夫をつかむ。	10分	10分	2 2つの戦争の原因と結果について調べましょう。  ・日本との関係で、原因と結果をとらえるようにする。
3 コンビニエンスストアが私たちの生活に役立っていることをつかむ。	25分	25分	3 2つの戦争が今後に与える影響について考えてみる。
○学習したことをまとめる。	直接指導 10分	間接指導 10分	○学習したことをまとめる。

**表8 児童の感想**

- ・ コンビニのしくみを調べて、品物を売る以外にも機械でお金をおろすこともできるので  
すごいと思いました。コンビニの色々なことが分かって良かったです。
- ・ 2つの戦争について詳しく分かったので良かったと思います。
- ・ 日本は中国とロシアと戦って、戦争で戦死者が多く出しているので戦争は大変だなと思  
った。
- ・ ガイド学習が上手にできたように思う。司会もやるときの工夫も必要だと思った。
- ・ ノートのまとめ方に時間がかかった。

表7と表8は、自分が実際に社会科の複式授業を行い児童に感想を書かせたものである。実  
際に授業を行ってみると、なかなかガイド学習ができずに、他の学年の作業が気になることも  
多かった。教師のわたりもうまくいかずに、それが児童の理解につながらずノートのまとめ方  
などにもあらわれたようである。

児童の感想では、ガイド学習を取り入れながら進めたがあまりうまくいっていない様子がわ  
かる。しかし、多くの授業の実践を通しながら児童はガイド学習のやり方を覚えていくと思わ  
れる。

## 5 考 察

複式学級は2つの学年になるので、指導において間接指導の仕方や教師のわたりのやり方  
がなかなかうまくいかないことが挙げられている。少人数のため話し合いがうまくいかない  
ことも多い。

そのためには、ずらしを取り入れた授業の充実を目指していくことが大事になるが、間接  
指導を充実させていくことが重要となる。

指導の充実させていくためには、ガイド学習やワークシートを活用して行うことによって  
指導がより効果を上げるものとなる。ガイド学習は、学級集団から選ばれた児童が教師指導  
のもとに立てた学習進行計画によってリードしながら共同で学習する方法であるが、ガイド  
学習の指導事例（表4）のガイドの動きから効果が見られる指導方法である。

ワークシートについては、学習内容が分かりにくい時に、活用することにより学習の流れを把  
握しやすくなる方法であるが、累積することが大切になる。

## 6 まとめと今後の課題

複式授業の指導方法は、工夫することによって個に応じたことができる。複式学級のある学校は  
へき地にあるところが多い。へき地の特性を生かしながら取り組んでいくことでより効果が見ら  
れることも多い。近年、学校の統合によって数校の小規模校が1つの学校に統合され単式の学級  
が増えているが複式学級のある学校も依然として多い。苦労も多いが、工夫をしながら個を生か  
した授業をしているところも多い。

しかし、県内それぞれの地域でも取り組み方が違うので、実態を把握しながら様子を見ていく  
必要がある。

## 引用文献

- 1) 青森県教育庁中南教育事務所(2008);「中南の教育」, 中南教育事務所, pp37-38.
- 2) 下北へき地・複式教育研究会;(2008);「きたのしるべ 平成19年度 実践のあゆみ 第30号」, 下北へき地・複式教育研究会, pp10-12.
- 3) 青森県教育委員会(2007);「平成17・18年度指導資料第33集 へき地・複式教育ハンドブック(一般編)」, 青森県教育庁義務教育課, pp43-44.
- 4) 青森県教育委員会(2007);「平成17・18年度指導資料第33集 へき地・複式教育ハンドブック(一般編)」, 青森県教育庁義務教育課, pp46-48.
- 5) 青森県教育委員会(2007);「平成17・18年度指導資料第33集 へき地・複式教育ハンドブック(一般編)」, 青森県教育庁義務教育課, pp45.
- 6) 平川市立・川小中学校;「平成19年度第44回南地方へき地・複式教育研究会研究発表会開催要項」, 平川市立・川小学校, pp66-68.
- 7) 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター(2005);「研究員紀要第3号」, 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター, pp6-7.
- 8) 青森県教育委員会(2009)<刊行予定>;「平成19・20年度指導資料第34集 へき地・複式教育ハンドブック(事例編)」, 青森県教育庁学校教育課, pp41-42.
- 9) 青森県教育委員会(2009)<刊行予定>;「平成19・20年度指導資料第34集 へき地・複式教育ハンドブック(事例編)」, 青森県教育庁学校教育課, pp49-50.

## 参考文献

- 1) 全国へき地・教育連盟(2004);「これだけは 知っておきたい へき地教育ガイドブック」, 全国へき地教育研究連盟.
- 2) 全国へき地教育研究連盟(1999);「効率的な学習指導と学校・学級経営 ～へき地・小規模・複式学級を有する学校の実践的事例～」, 全国へき地教育研究連盟.
- 3) へき地教育東北ブロック研究会, 青森県へき地・複式教育研究会(2008);「第24回東北地区へき地教育研究大会青森大会, 第54回青森県へき地・複式教育研究大会むつ大会大会要項」, へき地教育東北ブロック研究会, 青森県へき地・複式教育研究会.